

日特建設株式会社



本店			
〒103-0004	東京都中央区東日本橋3-10-6	TEL.03(5645)5050 (大代表) FAX.03(5645)5051	
札幌支店			
〒004-0041	札幌市厚別区大谷地東4-2-20	TEL.011(801)3611(代) FAX.011(801)3633	旭川営業所 TEL.0166(48)3700 函館営業所 TEL.0138(35)7010 道東営業所 TEL.0155(24)5600
東北支店			
〒982-0036	仙台市太白区富沢南1-18-8	TEL.022(243)4439(代) FAX.022(243)4438	青森営業所 TEL.0177(73)7275 盛岡営業所 TEL.019(606)6120 三陸出張所 TEL.0193(27)8157 秋田営業所 TEL.018(863)3035 山形営業所 TEL.023(641)5988 福島営業所 TEL.024(536)1800
東京支店			
〒103-0004	東京都中央区東日本橋3-10-6	TEL.03(5645)5100(代) FAX.03(5645)5107	群馬営業所 TEL.027(253)2305 宇都宮営業所 TEL.028(637)3567 水戸営業所 TEL.029(246)2700 埼玉営業所 TEL.048(647)6981 千葉営業所 TEL.043(225)8023 横浜営業所 TEL.045(226)4820 長野営業所 TEL.026(228)6761
北陸支店			
〒950-0963	新潟市中央区南出来島1-4-4	TEL.025(383)8700(代) FAX.025(383)8701	富山営業所 TEL.076(452)2766 金沢営業所 TEL.076(240)0111 福井営業所 TEL.0776(38)6499 佐渡営業所 TEL.0259(55)2332 上越営業所 TEL.025(544)4750
名古屋支店			
〒460-0008	名古屋市中区栄1-16-6	TEL.052(202)3211(代) FAX.052(202)3212	岐阜営業所 TEL.058(275)0206 静岡営業所 TEL.054(202)2090 三重営業所 TEL.059(225)6575
大阪支店			
〒541-0048	大阪市中央区瓦町2-2-7	TEL.06(6232)2109(代) FAX.06(6232)2108	京滋営業所 TEL.075(646)5890 神戸営業所 TEL.078(577)2570 奈良営業所 TEL.0747(22)5571 高松営業所 TEL.087(815)0822 松山営業所 TEL.089(998)2221 高知営業所 TEL.088(861)4171
広島支店			
〒730-0803	広島市中区広瀬北町3-11	TEL.082(231)2109(代) FAX.082(231)2310	鳥取営業所 TEL.0857(39)8050 松江営業所 TEL.0852(21)7317 岡山営業所 TEL.086(226)1429 山口営業所 TEL.083(925)4258
九州支店			
〒812-0027	福岡市博多区下川端町1-3	TEL.092(271)6461(代) FAX.092(271)6482	佐賀営業所 TEL.0952(37)6912 長崎営業所 TEL.0957(49)9320 熊本営業所 TEL.096(382)1639 大分営業所 TEL.097(552)4222 宮崎営業所 TEL.0985(23)1406 鹿児島営業所 TEL.099(258)3867 沖縄営業所 TEL.098(875)4400
直轄グラウト部			
〒103-0004	東京都中央区東日本橋3-10-6	TEL.03(5645)5111(代) FAX.03(5645)5112	
海外事業部			
〒103-0004	東京都中央区東日本橋3-10-6	TEL.03(5645)5055(代) FAX.03(5645)5056	
ジャカルタ 駐在員事務所 (インドネシア共和国)			
	GENERALI TOWER G.16/F GRAND RUBINA BUSINESS PARK at Rasuna Epicentrum Jl. HR Rasuna Said, Jakarta 12940, Indonesia	TEL.+62-21(2994)1582 FAX.+62-21(2994)1991	

□ 問い合わせ先 □

日特建設株式会社 経営戦略本部 経営企画部 広報課

〒103-0004

東京都中央区東日本橋 3-10-6 Daiwa 東日本橋ビル 4階・5階・6階

TEL 03-5645-5080 / FAX 03-5645-5083

ホームページ内「お問い合わせ」フォーム (<https://www.nittoc.co.jp/contact/index.html>) からの

お問い合わせが便利です。

ご意見、ご感想をお寄せください。当社の活動や報告書の改善に役立たせていただきます。

CSR報告書 NITTOC 2019



「守る」技術で、つながる、未来へ。



もくじ

■ 社長メッセージ	2
■ 会社概要	3
■ 経営目標・経営理念・経営方針	4
■ コーポレート・ガバナンス	5
■ コンプライアンス	6
■ 人材育成・就労制度	7
■ 新工法紹介	12
■ 安全衛生活動・安全教育	13
■ 現場紹介	15
■ 海外事業	19
■ 環境活動	23
■ 社会貢献	25

■ 編集にあたって

対象期間：2018年4月～2019年3月

※ただし当該期間外の取組も一部掲載しています。

対象範囲：当社とグループ会社の活動

発行時期：2019年6月



社長メッセージ

〇●〇

日特建設は、1947年（昭和22年）ダム基礎を創業工種として産声を上げ、環境防災、維持補修、都市再生分野などの専門工事に特化した地質に強い会社として評価をいただいております。

2017年度を初年度とする中期経営計画 2017（2017年度 -2019年度）がスタートし、すでに2年が経過しました。

現在、建設業に対するニーズは、かつてないスピードで変化しており、その環境もまた変化しようとしています。例えば近年は、土曜日の現場事務所の閉所などを伴う働き方改革、ICTを活用した生産性の向上、協力会社社員の高齢化など様々な課題があります。日特建設は、その環境の中でも現在の水準を上回る利益をステークホルダーに提供していくという使命を守り、「信頼される技術力と施工力」をさらに磨きをかけ、そのニーズに対応していきます。

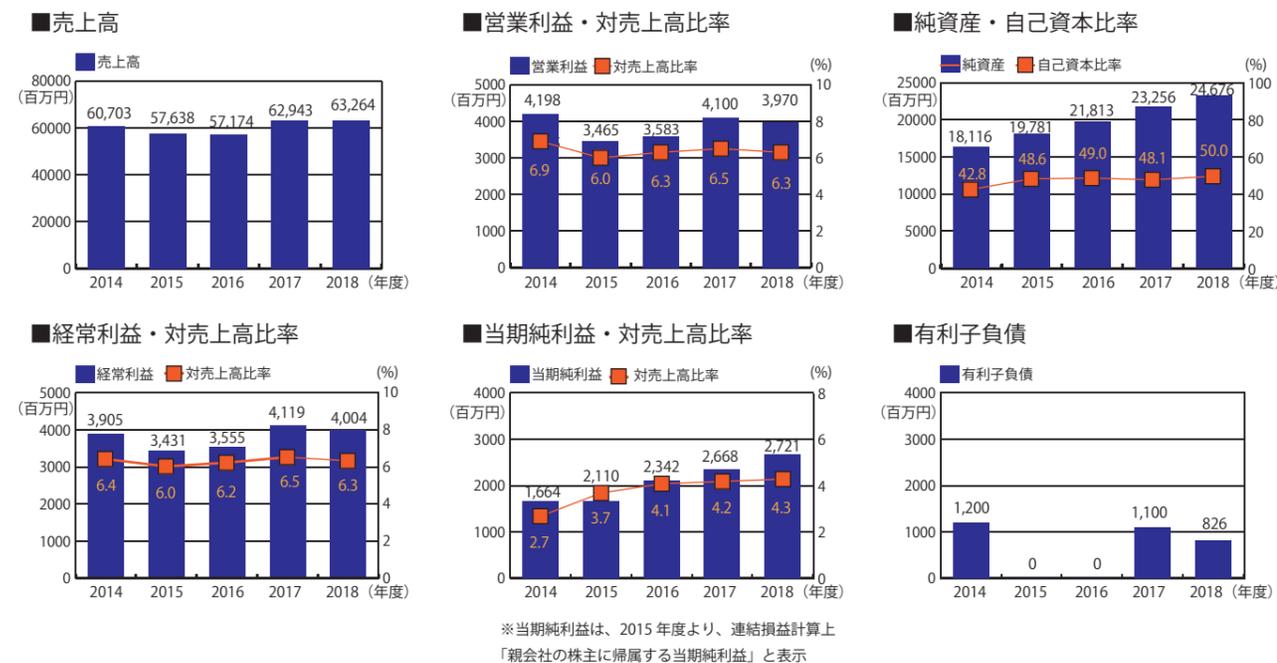
当社の主な業務は、インフラの整備工事、防災工事、環境緑化工事など、国土の安全・安心にかかわる工事です。また会社の使命には、コンプライアンス、社会貢献、環境活動、顧客満足・投資家満足・従業員満足の向上など、多くの事柄があります。これら社会のさまざまな要請や期待に応えること、つまりそれはCSR（企業の社会的責任）の履行を前提としています。企業に求められる使命や対象者は、工事の品質や安全管理やそれを提供するお客様だけではなく、工事の周辺にお住まいの方々や施工したインフラを使用していただく方々など多岐に及びます。当社は、経営理念である「安全・安心な国土造りに貢献する会社」、「基礎工事における総合技術力と効率的な経営」、「信頼される技術力に培われた、環境・防災工事を主力とした基礎工事のエキスパート」を目指す建設業を営む会社として、社会的責任を果たしていく所存でございます。今後をご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

● 会社概要 2019年3月31日現在

■商号	日特建設株式会社 NITTOC CONSTRUCTION CO.,LTD
■本店	東京都中央区東日本橋 3-10-6
■設立	1947年(昭和22年)12月17日
■資本	発行済株式総数 43,919千株 資本金 60億円 東京証券取引所 第一部上場
■代表者	代表取締役社長 永井 典久
■社員数	建設事業 1,167名 (連結) その他の事業 10名 計 1,177名
※社員数は、有期労働契約に基づく常用労働者 273人を含めて掲載しております。	
■業績(連結)	売上高 632億円 営業利益 39億円 経常利益 40億円 親会社株主に帰属する当期純利益 27億円

■営業種目	総合建設業 ・土木・基礎 ・地質コンサルタント
■許可	建設業許可 特定建設業 国土交通大臣(特-28)第211号
■登録	建設コンサルタント登録 登録番号 建26第15号 測量業者登録 登録番号 第(15)-435号 地質調査業者登録 登録番号 質29第2号
■免許	宅地建物取引業 東京都知事(2)第91766号
■指定	土壤汚染調査機関指定業者 指定番号 環2003-8-1002
■事業所	本店(東京) 支店/札幌・東北・東京・北陸・名古屋 ・大阪・広島・九州 ・直轄グラウト部・海外事業部

● 業績(連結) 2019年3月31日現在



● 経営目標

2017年度からの3年間は、「我が国のインフラが新設から補修・更新に転換する新たな時代に向けた成長基盤を構築する期間」と位置づけ、下記の目標達成に向け全役職員一丸となり実行してまいります。2018年度は以下の通りに進めてまいりました。

中期経営計画(3ケ年)の位置付け
「Next Challenge」

我が国のインフラが新設から補修・更新に転換する新たな時代に向けた成長基盤を構築する期間

1. 事業戦略
変化する建設市場に適応した「優れた技術」と「質の高い施工」で顧客の信頼を高め、効率的に収益を確保する。

2. 経営目標

1) 営業面の目標

- ・法面工事のトップを目指す(2016年度実績 業界2位)
- ・地盤改良工事 受注高の60%増加(2016年度比)
- ・法面補修工事の拡大
- ・海外工事の強化
(2019年度までに完工高10億円を目指す。)

2) 業績面の目標

- ・営業利益 30億円以上
- ・経常利益率 5.0%以上

3) 財務面の目標

- ・自己資本比率 50%以上確保
(2016年度実績 49.0%)
- ・ROE 9.0%以上の確保
- ・キャッシュ・フロー プラス以上の確保

4) 株主還元の目標

- ・配当性向 30%以上かつ総還元性向 50%以上
※ 総還元性向(配当及び自己株式取得)

3. 2019年度 経営理念・経営方針

経営理念

- ・使命(Mission)
安全・安心な国土造りに貢献する会社

価値観(Value)

基礎工事における総合技術力と効率的な経営

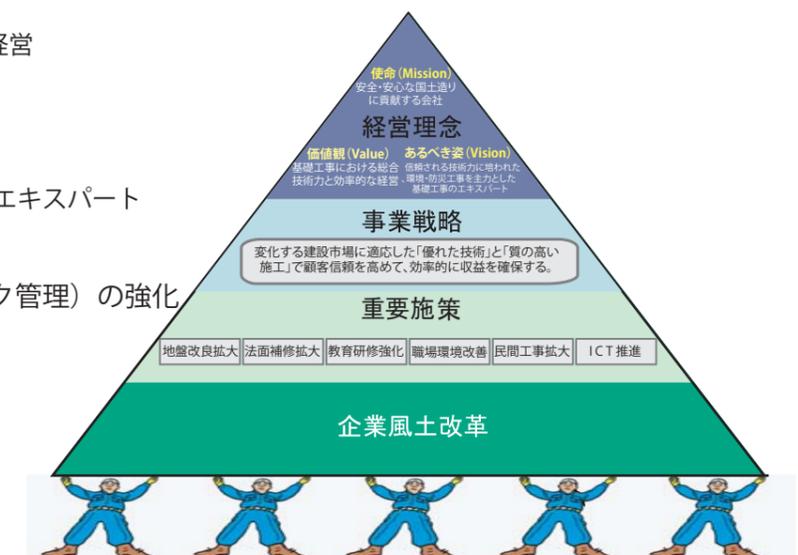
あるべき姿(Vision)

信頼される技術力に培われた、

環境・防災工事を主力とした基礎工事のエキスペート

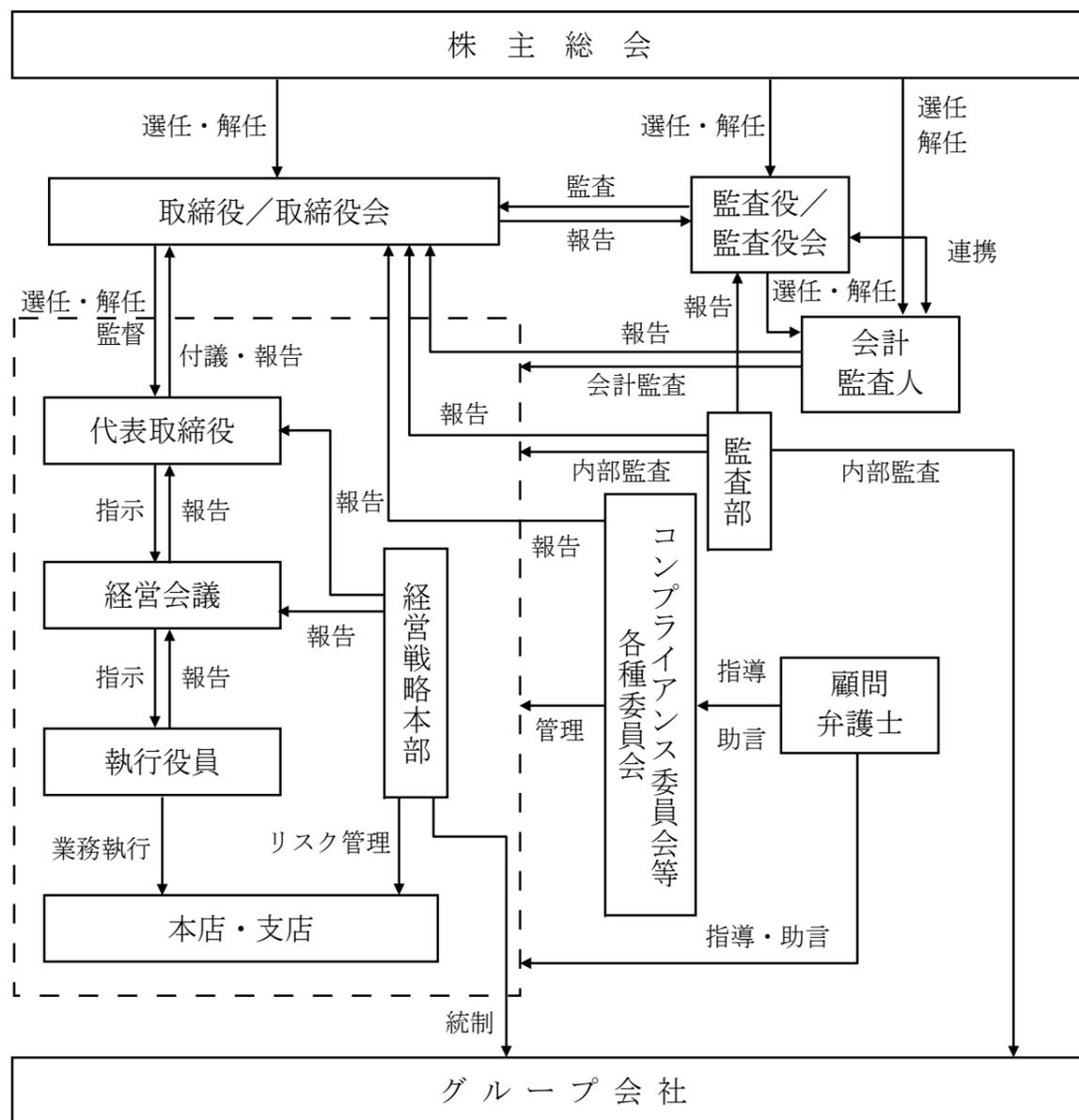
経営方針

1. 内部統制(コンプライアンス、リスク管理)の強化
2. 安全と職場環境を重視した経営
3. 基礎工事の量の確保
4. 収益性の維持と生産性の向上
5. キャッシュ・フロー重視の経営
6. 人材の確保と育成



● コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、企業活動を支えるすべてのステークホルダーの利益を重視し、かつ各種法規範のみならず、社内規範や社会の良識・常識をも遵守した企業倫理の重要性を認識するとともに、企業の継続的な発展と、社会的信用の獲得、また、反社会的集団に対する不当利益供与の根絶等、経営の透明性、健全性を高め、社会基盤の整備に貢献できる組織の構築をコーポレート・ガバナンスに関する基本的な方針としております。



日特建設では、コンプライアンスは重要な社会的責任であり企業存続の基盤であると考え、「行動規範 - コンプライアンス基本方針」に則り、法令や社内外のルールを徹底してまいります。そのためにコンプライアンス重視の業務体制の構築はもちろん、社員に対するコンプライアンス研修にも力を入れております。

● 行動規範 - コンプライアンス基本方針

私たちは、事業を営む者として企業の社会的責任を自覚し、法令や社内外のルールおよびその精神を遵守するとともに社会的良識をもって、以下の通り行動します。

- 1 私たちは、社是である「日々是進歩」、および社訓である「安全第一、信用確立、技術発展」を常に踏まえた企業活動を行い、経済や社会の発展に貢献します。
- 2 私たちは、法令や社内ルールを遵守するだけでなく、企業倫理に基づいた企業人として誇れる行動を通じて、社会からの信頼に応えるように努めます。
- 3 私たちは、「開かれた企業」として適時・適切に企業情報の提供を行なうとともにステークホルダーをはじめとする社会からの声に耳を傾け企業活動に反映させるように努めます。
- 4 私たちは、環境問題への取組は企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動します。
- 5 私たちは、地域で働く企業人として地域との融和に努め、地域活動にも自主的に参加し、地域社会に貢献できるように努めます。
- 6 私たちは、お客様の要望に誠実に応えるとともに、お客様の目線でものを考え、お客様本位の対応を行います。
- 7 私たちは、取引先と透明性の高い公正で健全な関係を築き上げ、相互の繁栄を考えた取引を行なうように努めます。
- 8 私たちは、誠実かつ健全な企業活動を継続することで、社会から信頼される企業となるよう努めます。
- 9 私たちは、従業員の人權を尊重し、個性を認め合い、十分なコミュニケーションを心掛けることで、安全で快適な職場を築きます。
- 10 私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体には厳しく対処します。

● コンプライアンスの徹底、教育

1. コンプライアンスの徹底

行動規範を定め、各種会議で随時一人ひとりが確認し、コンプライアンス意識の向上を図っています。

2. コンプライアンス教育

(1) 研修会

当社では年間を通じて様々な会議で、コンプライアンス研修を行っております。

例：工事部長・工務課長研修、事務管理部課長研修、コンプライアンス・リスク管理推進責任者研修

(2) 社内報、e-ラーニングを通じた教育

毎月、社内報に様々な具体例を紹介したコンプライアンス講座を掲載しています。またe-ラーニングを用いて、定期的に教育を行い、社員一人ひとりのコンプライアンス意識や理解の向上を図っています。

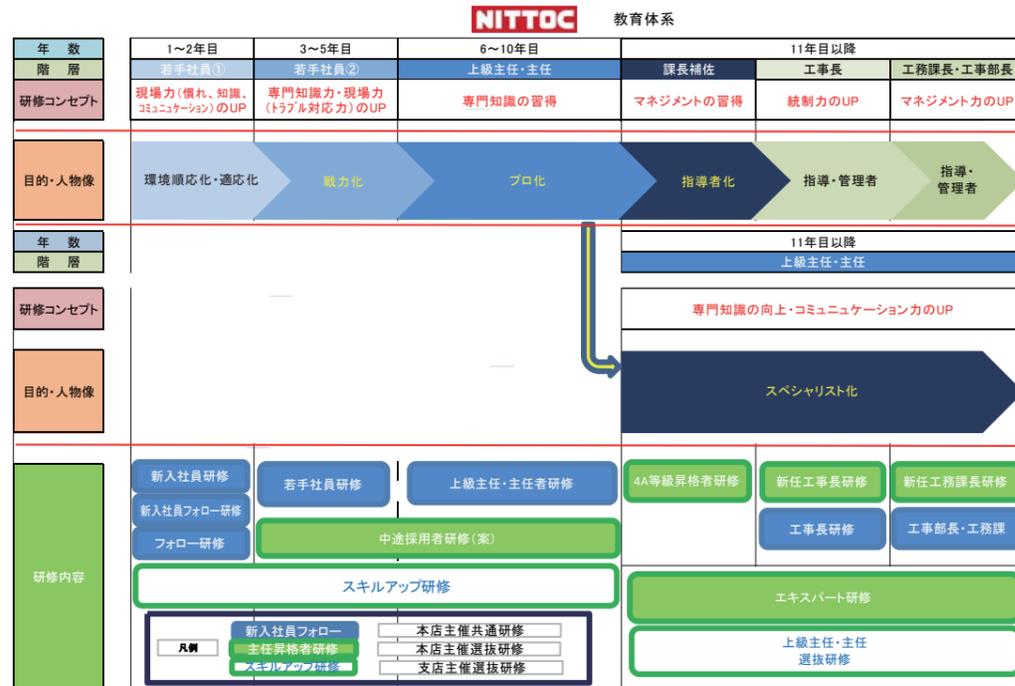


コンプライアンス・リスク管理推進責任者研修



● 教育制度 社員の可能性を引き出すため、階層ごとに教育制度を設けています。

私たちはこのコンセプトのもと、未来の夢のため、将来を見据えた教育制度を整えています。さらに社員一人ひとりの気持ちを大切に、個性を伸ばしていくことで、優れた専門性とさまざまなものごとに興味を持つ、多様性を併せ持った人物への成長を促していきます。



● 主な研修の様子

主な研修の様子をご紹介します。



新入社員研修



営業所長研修



工事部長・工務課長研修



支店品質管理責任者研修

● 就労制度 ライフイベントに合わせ、様々な就労制度を設けています。

各種の就労制度を取り入れ、社員に働きやすい職場を目指しています。

例：育児・介護休暇、休業、短時間勤務、自己啓発研修(LGAT)・ボランティア活動休暇等

育児休暇等取得社員の声



7才・4才・1才の娘を育てています。それぞれに約1年~2年間の産休・育休を取得し、復職後は短時間勤務制度を活用しています。上司や同僚の理解、そして心強い会社の制度があることにより仕事をしながら3人の子供を育てることができています。昨年度より子供が小学3年生まで時短勤務が利用できることになり、子供の気持ちに寄り添う時間ができたことで【時間に追われ忙しい母】ではなく、【少し余裕のある母】でいられる事を嬉しく思っています。

経営戦略本部 法務部 柳沼 里恵

● 社内表彰制度 一人ひとりが輝く会社に

社内の活性化と社員のモチベーション向上を目指し、様々な表彰制度を設けています。

社長賞(瑞宝単光章)受賞社員の声



2018年4月29日に瑞宝単光章と、それに伴い社長賞をいただきました。長年公共工事に従事した事と、建設マスターを受賞している事が、受賞の対象となりました。1981年に日特建設に入社し、30年以上現場で作業してまいりました、その間多くの人に支えられ、又指導していただき、今があると思います。現在も現場にて作業に従事していますが、今回いただいた賞を励みに、建設業界で働く一員として、無事故で、コンプライアンスを守り、胸を張れる日特建設の社員でありたいと思います。

東京支店 事業部工務部 倉田幸夫

● 資格取得支援 社員の資格取得のために、資格手当の支給など様々な支援をしています。

事業を行っていく上で必要な資格について、各種の支援を行っています。特に、現場代理人を務めるために必要な1級土木施工管理技士については、研修や論文添削なども行っています。また、技術士については、日特建設技術士会が支援の中心となり支援を行っています。また、資格取得者には資格手当を支給し、社員の資格獲得へのモチベーションを高める働きをしています。

	手当を支給する資格(取得一時金を含む)
技術系	博士(工学、理学)、技術士、1級土木施工管理技士・2級土木施工管理技士(土木、薬液注入)、1級・2級建築士、1級・2級建築施工管理技士、1級・2級造園施工管理技士、1級・2級管工事施工管理技士、1級・2級建設機械施工技士、1級・2級電気工事施工管理技士、第1・第2・第3種電気主任技術者、第1種・第2種電気工事士、甲種・乙種火薬取扱保安責任者、測量士、測量士補、地質調査技士、基礎施工士、地すべり防止工事士、第1・第2種下水道技術検定合格者、推進工事技士、コンクリート診断士、VEリーダー、技能士(1級・2級さく井)、自動車整備士(1級・2級・3級)、甲種・乙種危険物取扱者、労働安全・衛生コンサルタント、公害防止管理者、公害防止主任管理者、グラウンドアンカー施工士、建築積算士、工事管理者(新幹線・在来線)、ジェットグラウト技士、のり面施工管理技術者、土壌汚染調査技術管理者、水産工学技士(水産土木部門)、1級舗装施工管理技術者、シビルコンサルティングマネージャー(RCCM)、ダム工事総括管理技術者、
事務系	公認会計士、公認会計士補、税理士、弁理士、司法書士、不動産鑑定士、不動産鑑定士補、宅地建物取引士、土地家屋調査士、1級・2級建設業経理事務士、システム監査技術者、ITストラテジスト(システムアナリスト)、システムアーキテクト(アプリケーションエンジニア)、プロジェクトマネージャ、ネットワークスペシャリスト、データベーススペシャリスト、情報セキュリティスペシャリスト、ITサービスマネージャ、社会保険労務士、衛生管理者、応用情報技術者(第1種情報処理技術者・ソフトウェア開発技術者)、3級建設業経理事務士、基本情報技術者(第2種情報処理技術者)、ITパスポート(初級システムアドミニストレーター)、1級簿記検定

● 働きやすい職場環境 働きやすい職場環境の整備を進めています。

日特建設では、社員の働きやすい職場環境作りを行っています。その中で、残業時間の抑制・労働時間の短縮や、有給休暇の取得促進、現場の土曜日休日の取得等、男女共に働きやすい職場の構築を進めています。

■ 中期経営計画 重要施策・・・教育・研修チーム、職場環境改善チーム

中期経営計画では、重要施策を6つ設定して取り組んでいます。そのなかで教育研修強化と職場環境改善を設け、組織横断してチームを作り、社員の教育体制強化と職場環境の改善に取り組んでいます。

1. 教育・研修チーム

目的：専門工事会社としての技術者を計画的に育成する。

- 目標：(1) 経験や知見に基づいた技術の継承。
 (2) 施工技術を身につけた専門工事の技術者を育てる。
 (3) 客先からの指名の取れる技術者を育成する。

取組事項：(1) 階層別研修の実施

- ・・・キャリア採用研修、エキスパート研修ほか。OFF-JTとOJTの明確化にする。
- (2) スキルマップシステムの運用
- ・・・一人ひとりのスキル習得の明確化により、適材適所の配置に役立てる。
- (3) 支店開催研修の支援

2. 職場環境改善チーム

目的：職員の心身の健全化、過重労働防止を図るための職場改善を行う。

- 取組事項：(1) 働き方改革法案施行への対応・・・施工時ロスを未然に防ぐ、現業社員の増員。
 (2) 四半期毎の時間外労働時間の目標管理・・・各部支店で四半期ごとに目標を設定して管理する。
 (3) 現業社員の4週6休・平日残業時間の平均2時間以内の推進
 (4) 入社3年目までの配置ルールの徹底
 (5) 新入社員教育制度の実施・・・相談のしやすい環境、さまざまなサポート、マネジメントスキル向上
 (6) その他・・・現場管理業務の軽減(電子小黒板の試験導入、現場事務所と宿舍の作業現場への近接化ほか)

● 次世代の育成「夏のリコチャレ2018」新たに建設業界を担う人材の育成にも協力しています。

日特建設は、8月9日、日本経済団体連合会、内閣府、文部科学省が主催し、株式会社建設通信新聞、日本大学理工学部が共催する「夏のリコチャレ2018」に出展しました。

このイベントは、理工系分野に興味がある女子中高生・女子学生の皆さんが、将来の自分をしっかりイメージして進路選択(チャレンジ)することを応援し、建設業界の新たな担い手となる人材を呼び込む目的で開催され、東京都をはじめ各建設会社など35社・団体が出展しました。当日は参加された中学生、高校生の生徒やそのご家族に対して、各団体が建設、土木の仕事の内容を分かりやすく、楽しんで理解してもらえるように説明いたしました。



夏のリコチャレ2018 当社の出展ブースの様子



● 研修・開発拠点の完成

1. 蓮田総合センター 完成

当社が創立70周年に際して計画を進めてきた日特建設蓮田総合センターが10月に完成しました。

この施設は「人材育成」と「技術開発」を強化する新たな拠点となります。施設は人材育成のための研修施設や技術開発のための研究開発室をはじめ、研修生のための宿泊施設、寮施設を備えています。また、社員間の交流の場や災害に備えて本社のバックアップオフィスの機能も有する施設です。今後、当社は完成しましたこの施設を活用し、集中的で効率的な人材育成と技術開発の新たな強化を進めてまいります。



蓮田総合センター外環(正面道路より)



2階中庭夜景



1F大会議室(80人収容)



1階大型試験室

2. 施設の概要

- (1) 名称：日特建設株式会社 蓮田総合センター
- (2) 所在地：埼玉県蓮田市駒崎1772-1
- (3) 延床面積：2,999.35㎡
- (4) 構造・規模：RC造・地上3階建て

3. 設備機能

- (1) 研究開発棟
- (2) 階層別研修室
- (3) 施工指導課の所属員寮
- (4) 研修対象者の宿泊施設
- (5) 震災時の本店・東京支店のバックアップオフィス



● コミュニケーション活動 社員同士のオフタイム活動を支援しています。

当社と社員会は、社員同士の様々なコミュニケーション活動(通称「コミ活」)に対して、活動費補助を行っています。仕事上の関係だけではなく、豊かな人間関係づくりを推進しています。



■全国ボウリング大会開催

当社は、社員間のコミュニケーションを図るため、毎年7月から10月にかけて本店、支店、営業所を含めた全国で行うボウリング大会を支援しています。ボウリング終了後は、懇親会を催し、食事をしながらボウリングの結果を含め、語り合いました。3月には各地の成績上位者を、東京に集めて、全国ボウリング大会を開催しました。大会の参加者には、抽選で賞品も授与されています。当社では、コミュニケーションを促進するため、今後もさまざまなレクリエーション活動を支援していきます。



■ゴルフ大会 各地で開催

当社のゴルフ愛好者の有志は、全国でゴルフ大会を開催しています。4月には本店で44名、北陸支店で26名、5月には東北支店で12名、広島支店で13名、九州支店で21名、直轄グラウト部で26名、7月には、札幌支店で7名、8月には、本店で14名、名古屋支店で16名、9月には、北陸支店で6名10月には、本店で25名の参加によりゴルフ大会が開催されました。下期は10月に、本店で25名、11月も15名の参加によりゴルフ大会が開催されています。以上のように、各支店・本店で活発にゴルフ大会が開催されています。



■全国でマラソン大会に参加

毎年、各支店の有志が、各地域のマラソン大会や駅伝大会などマラソン大会に参加しています。

名古屋支店で4月に10名、東北支店で5月に12名、10月に9名が参加するなど、日本全国の大会に積極的に参加しています。

また海外では、5月にインドネシア共和国で開催された、ASEAN地域最大規模の市民駅伝大会とされる『ジャカルタ「絆」駅伝』に、現地駐在員事務所等の社員16名が参加しています。



■各地で様々なイベント開催、参加・・・

バーベキュー大会、芋煮会、釣り

各地で、さまざまなイベントを開催しています。本店事業本部施工開発推進部は、7月に暑気払いとして、バーベキュー大会を開催しました。当日は43名が参加して、盛大に行われました。参加者は皆で、焼き肉などを楽しみました。

東北支店では、9月に仙台芋煮会(元祖芋煮開場広瀬川)を開催し、14名が参加して行われました。その他、本店で8月に4名でコンサート参加、名古屋支店で11月に温泉旅行、7月に広島支店で釣りを楽しむなど、社員同士で様々なイベントを企画、参加しています。



● 新たに開発した工法 当社では時代のニーズに合わせた新技術・工法の開発を随時行っています。

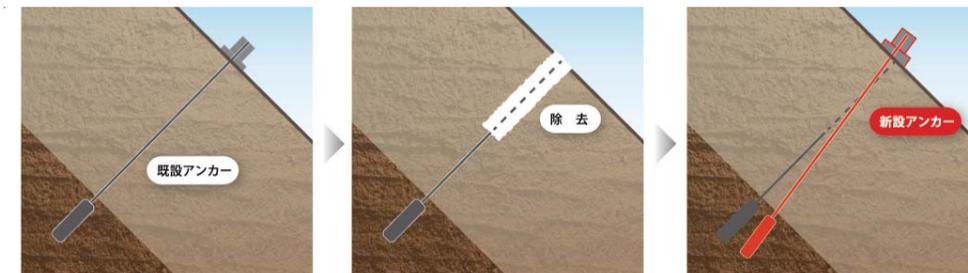
斜面・法面对策などの環境防災技術、既設構造物の維持補修技術、地盤改良・薬液注入といった都市再生技術など、数多くの経験と実績により裏打ちされた技術とノウハウで、安心・安全な国土造りに貢献できるよう今後も取り組んでまいります。

国内初の既設アンカー鋼線切断除去工法(特許出願中)

Bite off工法

Bite off工法は、独自に開発した特殊なビットを使用し、既設アンカーを切断・除去する工法です。切断・除去した場所に、新しいアンカーの設置が可能になります。

- 国内初のグラウンドアンカー切断専用システム
- 専用の切断ツールと汎用の削孔機でアンカーの鋼線を切断
- 既設アンカーを除去し、新しいアンカーを設置可能(既存の受圧構造物を利用することもできます)



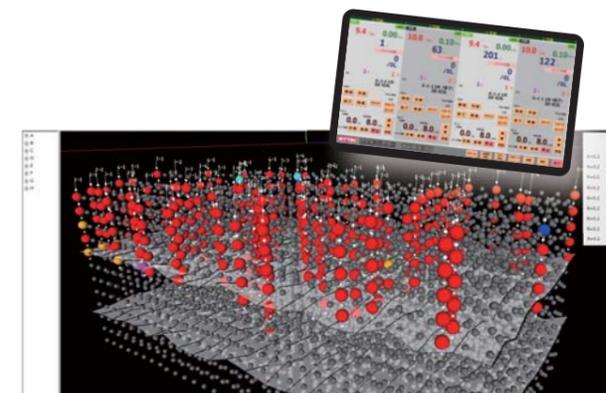
薬液注入制御・モニタリング装置

Grout Conductor

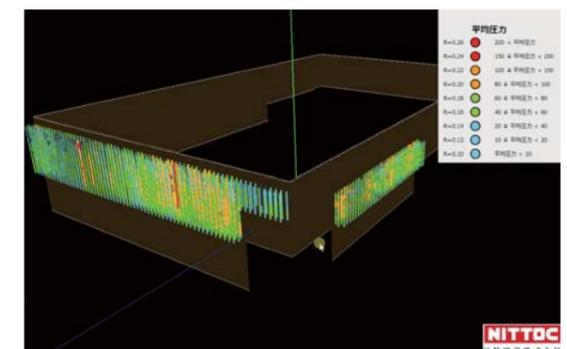
Grout Conductor(グラウトコンダクター)は、薬液注入工法の施工時に、注入の制御(流量、注入圧力)をするとともに、それらをモニタリングするシステムです。

計画された注入量等の仕様を設定することにより、本システムにて流量計・グラウトポンプを集中制御することが可能です。また、注入データ(積算流量、注入圧力)は、デジタルデータとしてモニタリングでき、その結果を2次元、3次元で表示することが可能です。

- 注入制御・モニタリング装置 1 台にて最大 8 セットの流量計、グラウトポンプを制御可能
- 注入圧力を検知し、設定した圧力の上限值を超えないよう、自動で注入材流量を制御
- 注入データをデジタルで集積し、帳票を自動で作成
- 注入結果を、2次元、3次元で表示し、色・大きさで表現



● 薬液注入データ管理システムによる 3 次元表示



●安全・衛生への配慮 安全に安心して働ける職場環境の整備を進めています。

日特建設は、社員、協力業者の社員を含めた工事に関わる全ての人々が、安心して働ける職場環境を整備することも企業の重要な責務であると認識し、安全・衛生環境の整備と教育に力を入れています。

■安全衛生管理活動基本計画

1. 安全衛生管理活動基本計画の策定・重点実施項目

日特建設では、本店の安全環境品質本部で安全に関する基本計画を立て、その計画に則り、各支店の安全環境品質部が、現場代理人に安全活動の指導を行います。また、その計画の中で、安全指導の基本方針を3つ設けており、そして比較的事故の多いものを重点実施項目として5つ選び、それに関する事故の発生を特に力を入れて管理しています。

+ 2019年度 安全衛生管理活動基本計画	
安全 第一	
全社統一スローガン	規則、規程、ルールを守り 危険ゼロの職場を確立する
基本方針	人命尊重を基本理念とし、設備と教育の充実を図り安全を確保する
目標	死亡、重大災害ゼロ 法面からの墜落・転落災害ゼロ
重点災害防止項目	●クレーン災害 ●墜落・転落災害
安全指導の基本方針	(1)『計画及び設備』 安全優先の計画を作成し、基本及び原則重視の設備を設置する (2)『教育』 類似工事の過去災害事例を自身の現場に置換えて学習する (3)『点検と是正』 現状と今後の作業を見据えた点検を行い、原則の場で改善する
重点実施項目(ゆとりを持った作業環境の整備)	
(1)安全指導強化項目の推進	①適切なクレーン作業方法の周知と徹底 ②法面、高所での墜落防止設備の先行設置 ③任力ホースの適正な養生 ④ボーリングマシン作業手順の周知と徹底 ⑤黒足場工法移動時の災害防止
(2)社員・作業員教育の強化	①当事者意識を持たせる災害事例教育 ②危険感受性の向上教育(新入社員・若手社員の体験型訓練、教育資料作成・配布)
(3)パトロールによる改善指導の強化	①パトロールレベルの向上(パトロール結果の見える化と安全衛生委員会での活用) ②安全指導強化項目の点検 ③次工程を見据えた(計画及び設備)の確認 ④保護具(ゴーグル型メガネ等)使用ルールの徹底
(4)指差呼称による「確認と呼吸」と「不安全行動の撲滅」	人払いヨシ! 安全帯ヨシ! 玉掛ヨシ! メガネヨシ!
(5)長時間労働防止対策の強化	①適正な就業管理の時間外、休日労働削減への取組強化 日 特 建 設 日 特 建 設 日 進 会

■安全教育の実施

当社では、社員や協力業者社員が業務において事故を起こしたり、けがをしないように、安全活動に必要な様々な教育を実施しています。また、法面の土質によって様々に変わる状況に応じた安全教育を行っております。

1. 新入社員への安全教育

当社では毎年4月、入社時に安全教育を行っています。法面実習などを実際に体験して安全設備の使い方を学び、作業員への管理・指導に役立つよう学んでもらっています。

2. 社員への安全教育

当社ではその他、社員に対しても研修を行っています。毎年、フォロー研修や若手研修などの集合教育では安全環境品質部長教育を行っています。また、定期的に各支店で社員に対して安全教育を行っています。



新入社員研修(ロープ高所作業に係る特別教育)



職長・安全衛生責任者研修(社員と協力業者の職長)

■安全パトロールと協力会社への教育

1. 安全パトロールの実施

日特建設では、本店の安全環境品質本部 主導のもと、各支店の安全環境品質部が各現場の安全パトロールを行っています。土木工事の現場ごとに作業環境、状況はそれぞれ異なります。その現場の安全管理の状況を、現場代理人だけでなく、本店や幹部の視点からもチェックすることで、事故を発生させない安全な現場・職場環境を目指します。

2. 協力会社(事業主)への教育

事業主(協力会社の社長や幹部)に対して、過去の災害事例に基づく災害防止教育の実施や法改正時の改正ポイントの解説、事業主パトロールの実施率の調査報告などを含めた講習を随時行っています。



安全パトロールの様子



協力会社(事業主)教育の様子

■日進会と安全衛生推進大会

1. 日進会(協力会社)と共に安全活動を推進

日進会は、会社並びにその子会社と会員(協力会社)が相互に提携し、労働災害、第三者公衆災害、交通災害の発生防止活動に取り組み、また、会員相互の意見交換、互助親睦を図り、更に技能の向上に努め共に発展し、会員の経済的地位の確立を期すことを目的とする会です。日進会と当社は共に協力し合いながら、安全活動を進めています。

2. 日特建設日進会、安全衛生推進大会

毎年6月に、当社の安全環境部の社員と全国の協力会社の代表者を集めた安全推進大会を開催しています。2018年度は、6月8日に第47回日進会総会と安全衛生推進大会が開催され、本支店社員および、会員の200名が出席しました。大会では、他の模範となる優秀な安全成績を収めた協力会社11社が表彰されました。



安全衛生推進大会



協力会社表彰

現場紹介-1



当社は、「環境防災」「維持補修」「都市再生」の分野で、社会ニーズに応える新技術を生み出し、安心・安全で豊かな社会づくりに貢献しています。そして、私たちにできる仕事をしっかりと着実にすることも、震災復興及び防災・減災への貢献になると考えています。

● 東日本大震災 復旧・復興への取り組み

■ 復旧治山2702工事、2801工事 湯の神地区 (福島県双葉郡)

東日本大震災発生時の激しい揺れにより大規模斜面崩壊が発生し、当社はその復旧工事を担当しました。直高150mもある大規模法面であるため、長距離・高所において“高品質”、“高強度”のモルタルを吹付けることを可能とした当社のHiSP工法を使い施工しました。

[発注者:福島県 概要:吹付法砕工、ロックボルト工、落石防止網工]



施工前



完成後

● 復旧・復興への取り組み

■ 一般国道236号 広尾町 林内法面防災外一連工事 (北海道広尾郡広尾町)

2016年8月の台風10号の影響により、国道236号の道路脇の斜面が一部崩壊し通行止めとなった現場です。仮復旧を行い車両は通行できる状態でしたが、本復旧のための法面対策工事として、法砕工、植生工を行いました。工事では、地盤が堅く削岩機を使って掘削を行い、また不陸も大きかったため、その補正にも時間を掛けました。

[発注者:北海道開発局帯広開発建設部 概要:法砕工、植生工]



施工前



完成後

● 復旧・復興への取り組み

■ 41号神岡地区防災対策工事 (岐阜県飛騨市)

2018年7月の豪雨によって法面が崩れ、国道41号が片側通行規制になりました。その復旧のため、当社は仮設防護柵の設置工事を担当しました。道路を早期に全面復旧するため、協力会社の施工班も通常より増やし、それとともに作業員の方々にも多人数に協力いただき、仮設防護柵の施工を完了しました。

[発注者:国土交通省中部地方整備局 概要:仮設防護柵設置工事]



施工中



完成後

■ JR呉線幸崎地区外災害復旧工事 (広島県三原市～東広島市)

2018年7月に発生した西日本豪雨災害では、多くの土砂災害が発生しました。JR呉線の沿線斜面でも多くの斜面災害が発生し、地域住民の足が閉ざされてしまいました。被災後、開通に向けた復旧工事が進められ、当社も参画しました。そして、2018年12月に全線開通を果たしました。

[発注者:西日本旅客鉄道株式会社(注文者:株式会社大林組) 概要:法砕工、モルタル吹付工、アンカー工、鉄筋挿入工]



施工中



完成後

現場紹介-2



当社は、「環境防災」「維持補修」「都市再生」の分野で、社会ニーズに応える新技術を生み出し、安心・安全で豊かな社会づくりに貢献しています。そして、私たちにできる仕事をしっかりと着実にすることも、震災復興及び防災・減災への貢献になると考えています。

● 復旧・復興への取組み

■ 九州自動車道 吉志地区のり面応急復旧工事 (福岡県北九州市)

2018年7月6日の豪雨により、九州自動車道の新門司IC～小倉東IC区間の法面が崩落しました。当社はその仮設防護柵による道路の復旧工事を行いました。開通のための緊急工事であったため、工事は昼夜で行い、作業員の方々延べ170以上人に協力いただき、7月17日に道路の全面開放ができました。

[発注者:西日本高速道路株式会社 概要:仮設防護柵設置工]



施工前



完成後

■ 497号府招地区応急復旧工事 (佐賀県伊万里市)

2018年10月に台風24号により発生した西九州道唐津伊万里道路の法面崩落が発生し、下り車線添いの山林が幅80m、高さ20mに亘って崩落して、路面を覆いました。当社はその復旧対策工事を担当しました。工事は、モルタル吹付工、法枠工、鉄筋挿入工を行いました。3月に道路は開通できました。

[発注者:国土交通省 九州地方整備局 佐賀国道事務所 概要:モルタル吹付工、法枠工、鉄筋挿入工]



施工前



完成後

● 特色のある現場

■ 大倉山ジャンプ競技場ランディングバーン改修工事 (北海道札幌市)

大倉山ジャンプ競技場をワールドカップ国際基準や国際スキー連盟の新規格にするための一環工事として、助走路(アプローチ)の角度を変えるため法枠で発砲スチロールブロックのズレ止めを行い、表面にコンクリート吹付を行いました。ランディングバーン(直地点)の角度は一定ではないため、助走路は少し進むごとに角度と厚みも変わり、高い施工精度を要求される工事でした。

[発注者:札幌市 概要:法枠工、コンクリート吹付工]



施工中



完成後

■ 端島炭坑跡70号棟埋戻し工事 (長崎県長崎市)

2015年に世界遺産に登録された通称「軍艦島(端島)」での旧端島小中学校の下部の埋戻し工事です。築60年で老朽化も進み、なおかつ世界遺産であるため、現状を維持して、傷つけないように慎重に施工をしました。また施工する学校建物だけでなく、クレーン等の施工機械が載る運動場、護岸などすべてに気を配り施工しました。そのほか工事では土地が軟弱であるため、空洞埋め立てに重い土を用いないことや、建物の崩壊にも気を付けて、安全管理をしっかり行い、施工を行いました。

[発注者:長崎市 概要:エアモルタル充填工、可塑性エアモルタル充填工]



施工中



完成後

● 海外展開について

インドネシア共和国は人口2.5億人を抱え、高い経済成長を続けています。しかし、交通渋滞が常態化するなど、インフラについてはいまだ未整備の状態です。

そこで当社では成長戦略の一環として、高い成長を続けるインドネシアのインフラ工事の受注を目指していきます。またインドネシアだけにとどまらず、成長する東南アジア地域のインフラ工事の受注も目指します。

■ インドネシアに子会社を設立

当社は、2012年9月にジャカルタ駐在員事務所を設け、現地法人設立の調査などを続けていました。そしてPT PANCA DUTA PRAKARSAとの間で、インドネシア共和国国内における建設事業を行う合弁会社を設立することを決議し、2015年10月に、日特建設株式会社とPT PANCA DUTA PRAKARSAとの間で合弁契約を締結しました。そしてPT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIAを設立し、2016年4月より営業を開始しています。

当社は、設立した連結子会社PT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIAにおいて、インドネシア共和国国内のインフラに関するのり面、地盤改良などの専門工事の受注に向けた受注活動を行ってまいります。

合弁会社の概要

- (1) 商号: PT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIA
- (2) 代表者: 松本 直
- (3) 所在地: インドネシア共和国 南ジャカルタ市
- (4) 営業開始年月: 2016年4月
- (5) 事業の内容: インドネシア共和国国内における建設事業
- (6) 決算期: 3月期
- (7) 資本金: 51,000百万インドネシアルピア (約398百万円)
※インドネシアルピア=0.0078円で計算しております。
- (8) 株主構成: 日特建設(株): 65%、PT PANCA DUTA PRAKARSA: 35%

住所:

GENERALI TOWER G, 16/F
GRAND RUBINA BUSINESS PARK
at Rasuna Epicentrum
Jl. HR Rasuna Said, Jakarta 12940, Indonesia
Tel. (021) 2994 1582 ; (021) 2994 1583
Fax. (021) 2994 1991

PT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIA ホームページ
<https://www.nittoc-id.co.id/>



新しいオフィスが入居しているビル
GENERALI TOWER

安全大会の様子(全社員・作業員)



年1回、全社員・作業員を集めて安全大会を開催し、安全意識の向上に努めています。

写真は、2018年8月25日にジャカルタ市内のホテルの会議場で開催

● PR活動について

当社はインドネシアに進出してまだ日が浅く、様々な機会を通じて当社を知っていただく必要があります。学会へのブース出展やインドネシア国内ゼネコン等への技術紹介プレゼンテーションなどPR活動を積極的に行っています。

■ インドネシア地盤工学会への出展

2018年11月に行われたインドネシア地盤工学会に技術展示ブースを出展しました。当社の工法はインドネシアでは珍しく、たくさんの方にご来場いただきました。

日本本社 技術本部からも職員が参加し、当社技術の詳細を説明しました



地盤工学会に出展したブース

● 社員教育について

日本の本社にインドネシア人スタッフを送り、社員教育を実施しました。安全担当のスタッフは、実際に現場の安全衛生パトロールに同行し、パトロール実施方法等を学びました。技術系スタッフには、元積作成のトレーニングや現場見学を通じて、営業(積算)担当社員としての基本的事項を教育しました。事務系社員は、当社の歴史や本社の業務フローなどを学びました。



安全衛生パトロールへの同行



機材センターの見学(事務系社員)

● コミュニケーション活動について

レクリエーション活動を活発におこない、社員の一体感の醸成を図っています。



社員家族参加のレクリエーション
(2018年11月17日)



ジャカルタ絆駅伝(2018年9月23日)

● 海外工事紹介

インドネシア共和国では、駐在員事務所開設から、子会社設立を経て、着実に施工実績を積み重ねています。インドネシアで手掛けた工事をご紹介します。



■ウォノギリ多目的ダム 堆砂対策工事 Countermeasure Sediment in Wonogiri Multipurpose DAM Reservoir (II)

インドネシアで初めてCDMを施工した工事です。施行場所は、中部ジャワのウォノギリです。既設ダムの貯水地内に堆砂対策として、新たに築堤する堤体基礎の地盤改良です。

発注者: 公共事業省
注文者: 安藤ハザマ - WIKA JO
工事内容: CDM
工事期間: 2017年11月~2018年11月

■ルムットバライ地熱発電所工事 Lumut Balai Geothermal FCRS and Power Plant

インドネシアで初めてジオファイバーを施工した工事です。施工場所は、スマトラ島パレンバンより車で8時間のところにあります。発電所部分の補強土壁の表面保護の為にジオファイバーが採用されました。

発注者: PT Pertamina Geothermal Energy
注文者: 丸紅
工事内容: ジオファイバー
工事期間: 2018年6月~2018年8月



■ハサン水力発電所工事 Hasang Hydroelectric Power Plant

導水路トンネル掘削の為に地山の固さを目的としてLW注入を施工しました。施工場所は、北スマトラのトバ湖近郊です。

発注者: Posco Engineering
注文者: Hae Chang Development Co., Ltd.
工事内容: LW注入
工事期間: 2018年5月~2018年10月



■プサンガン水力発電所工事 Peusangan Hydroelectric Power Plant

水圧鉄管路の脇で発生した地すべりの対策工事です。施工場所は、インドネシア最北端のアチエ州にあります。

発注者: PT PLN (Persero)
注文者: Hyundai - PP JO
工事内容: モルタル吹付、吹付法枠、ロックボルト、アンカー、水抜きボーリング
工事期間: 2018年7月~工事中



● グローバル社員の紹介

海外研修や語学研修、海外工事現場への出向、インドネシア人等の外国人技術者の教育を通じ、国際的な人材育成を図っています。当社に勤務するグローバル社員のご紹介です。



私は2018年11月にPT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIAの経理部、税務担当として入社しました。当社入社前は海に強みを持つ日系ゼネコンで働いていました。この度地盤や土に強みを持つ当社で働くことができ、私の知識や経験が更に増えていくことを大変うれしく思います。

私が入社して間もなくPT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIAの創立3周年記念パーティーがジャカルタ、Ancolで行われました。私は家族と共にパーティーに出席しましたが、その際社長や上司含め皆がとても気さくに接してくれ、当社に入社できたことをとてもうれしく感じました。今後は当社の一員として、私の知識や経験を活かし当社の益々の発展に寄与していきたいです。

ダルピト・ウィボウオ (Darpito Wibowo)
所属: PT NITTOC CONSTRUCTION INDONESIA 国籍: インドネシア



私は2004年に大学を卒業し約12年間建設業に従事し、2015年6月に日特建設に入社しました。当社に入社後、私が最初に経験した現場はCilegonでのグラウンドアンカーの施工でした。私の現在の業務は現場の予算作成、資機材の手配、労務調達そして毎月の出来高報告書の作成です。私の日々の業務は大変ではありますが、新しいことへの挑戦や私のスキルアップに繋がりとて楽しく仕事をしています。インドネシアには当社のような技術を持った企業はなく、会社からのサポートもあり、新しい技術を学べるのが本当に面白いです。当社の技術はインドネシアではまだ先進的であり、故に当社の技術を用いてインドネシアの発展に寄与することが私の使命であると考えています。そのため私は当社でより多くのことを学び工事管理のスペシャリストになっていきたいです。

ナナン・プジアント (Nanang Pujiyanto)
所属: ジャカルタ駐在員事務所 国籍: インドネシア



私が日特建設を知ったのは私が当時働いていた某日系ゼネコンのバリの現場で当社の日本社員が出向してきたことがきっかけでした。彼から当社の技術や業務の話を聞くうちに当社に興味を持ち、2014年5月に入社しました。入社後私が最初に従事した現場はMRT工事であり、現在に至るまで主に施工管理業務に従事しております。

私を含めた日特建設全従業員が全身全霊を以って当社を成功に導き、今よりも大きな会社にしていくことが当社に入社後の私の夢です。そのためインドネシアで度々発生する災害からの復旧に積極的に寄与していきたいです。

当社の発展に寄与するために私から家族である日特建設全従業員へのメッセージとして「誠心誠意を以って考え、行動しよう。そうすればどんな困難にも打ち勝てます。」共に働き、共に成功しましょう。

アンガ・ダヤ・サトリヨ (Angga Daya Satriyo)
所属: ジャカルタ駐在員事務所 国籍: インドネシア

● 環境方針

日特建設は、環境・防災・都市再生・維持管理関連の専門技術を得意とする総合管理力のある会社として、広く社会に貢献することを経営理念のひとつに掲げています。
技術本部は、この経営理念に基づき、下記の事項を環境方針として定めています。

1. 技術本部は、地球環境の保全活動を事業活動の一つとして位置付け、地球環境への負荷低減を目指し、環境マネジメントシステムの改善を図るとともに継続的向上に努める。
2. 限りある資源の有効利用と環境への負荷低減に向けた資源循環社会と、人を含む地球上の生物の環境共生型社会の構築に向けた研究・開発及び設計・検討を進める。
3. 廃棄物量低減、リサイクル率向上、省資源、省エネルギー、生態系保全、景観保全、環境保全型商品利用の促進、気候変動への適応などを目指した活動を推進する。
4. 環境関連の法規制、協定書、顧客及び業界の要求事項を遵守し、環境保全に関する社会的責務を積極的に果たす。
5. 技術本部の要員への環境教育を実施し、環境保全意識の向上に努める。
6. 顧客及び地域社会との協調を図るため、必要に応じ環境方針及び環境保全活動の実施状況を公開する。

● ISO14001を活用した環境マネジメントシステム

当社は、1999年2月に各環境関連部署の環境管理推進委員会から構成される「環境委員会事務局」を、1999年10月に環境管理責任者を委員長とする審議機関「環境委員会」を設置し、同年11月に「日特建設株式会社技術本部環境方針」を発表しました。その後、環境マネジメントシステムの構築を図り、2000年3月、技術本部としてISO14001環境マネジメントシステムを審査登録し、現在下記の環境目的を掲げています。

1. コピー用紙の使用量を減らし、環境への負荷を低減する。
2. 一般廃棄物のリサイクル率を高めて、環境への負荷を低減する。
3. 研究・開発業務実施要領で示された適用範囲のうち、技術本部の環境目的に示した著しい環境側面（16環境側面）を有する研究開発テーマを実施する。
4. 設計・検討業務実施要領で示された適用範囲の設計・検討業務について、
 - ①省エネ
 - ②省資源
 - ③大気質保全
 - ④水質保全
 - ⑤自然環境保全
 - ⑥地盤環境の保全
 - ⑦掘削量の削減
 - ⑧廃棄物の削減
 - ⑨廃棄物のリサイクル

上記9項目に該当する場合は確実に配慮する。

その後、6回目の更新審査(2015年版への移行審査を含む)を経て、19年間の運用を続けています。

● 環境保全効果

今年度の環境保全効果は、下表のようになりました（削減量は前年比）。産業廃棄物量は、埼玉試験所廃止により増加しています。今後も、廃棄物の削減、リサイクル率の向上に努め、環境負荷の低減に向けた取り組みを継続していきます。

効果の内容	指標の分類	単位	削減量	2018年	2017年	2016年	2015年
事業活動に投入する資源に関する効果	コピー用紙使用量	枚	▲14,500	151,000	136,500	135,000	161,500
	電気使用量	千kwh	21	501	522	532※	400
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	温室効果ガス排出量	t-co2	16	238	254	261	151
	産業廃棄物量	m3	▲63	174	11	0	102

温室効果ガス排出量算出は、環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」による
※2016年度は、本社移転に伴い同じフロアに他部署と同居することとなったため、フロア全体の電気使用量を用いたことにより前年比増となった。

● 2018年度 環境目的・目標達成状況

当社の環境マネジメントシステムは、環境への有害性評価を行いその低減を図るだけでなく、環境への間接的な有益性を評価するのが特徴です。環境に有益な工法を研究・開発、設計・検討することを通して、環境への負荷を低減する取り組みを行っています。

2018年度 環境目的・目標達成状況

管理項目	環境目標	検証方法	達成状況
事務業務	コピー用紙削減・節電・エコキャップ運動を継続。既に定着しているため特に数値目標は設定しない。	資源廃棄物管理表、エコキャップ運動推進表により検証。	【コピー用紙使用量】 2017年度136.5千枚 2018年度151.0千枚 前年比11%up
研究・開発業務	各研究・開発テーマの計画書に基づいて実施する。業務に際しては、著しい環境側面(有害性)に配慮して、周辺環境への影響を最小限に留めるものとする。	研究開発進捗管理表により検証。埼玉試験所の状況を現地確認。	環境に大きな影響を与えるような現象は発生していない。
設計・検討業務	環境・防災・都市再生・維持管理等の専門技術を活かし、環境側面に配慮した設計・検討を行う。	専用の技術営業管理システムのデータにより検証。	設計・検討した案件は確実に配慮している。

社会貢献 -1



当社は、社会から信頼される企業を目指し、様々な社会貢献活動を推進しています。その中から主なものを紹介します。

● **災害復旧・救援活動** 当社とその社員は、災害復旧・救護活動に協力しています。



■ **広島支店 西日本豪雨災害時の災害派遣部隊への用地の提供と応急対策の実施** (広島県 2018年8月)

2019年7月に中国地方で大きな被害を出した豪雨災害時には、現場周辺も斜面崩壊や土石流が発生し、国道・県道等のライフラインも寸断されました。幸いにも事務所用地は難を逃れましたが、近隣の高崎地区では土石流が発生したため、事務所用地を災害派遣基地として陸上自衛隊様に提供させていただきました。また、国道185号沿い斜面の応急復旧や倒木の伐採・除去、崩壊斜面のシート養生などの災害支援活動にも進んで参加しました。

● **現場見学会**

地域市民の方々に当社担当の工事等を理解していただくために、現場見学会等を各地で開催しています。



■ **東北支店 東北自動車道 橋梁補修工事現場見学会** (秋田県 2018年7月)

東北自動車道の橋梁補修工事の現場において、地元の小学校の児童30名を招き現場見学会を実施しました。

見学会では高所作業車に乗っていただき、橋桁を直接触ってもらいました。はじめは高いところへ上がるため、緊張気味でおとなしかった子供たちでしたが、実際に橋桁に触って、地上に降りてからは、皆大いにはしゃいでいました。有意義な課外授業になっていれば幸いです。



■ **広島支店 高齢者クラブ 現場見学会** (島根県 2019年1月)

多伎・朝山道路安全協議会主催イベントとして、多伎朝山道路供用開始前に地域の高齢者クラブの方々に対象に現場見学会を開催し、65名の方々に参加して頂きました。

発注者様による工事概要説明、その後3班に分かれて現場見学を行いました。地元の新設道路ということもあり熱心に見学して頂きました。



■ **広島支店 親子体験会への参加** (広島県 2019年2月)

発注者主催の竹原地区での親子体験会に参加しました。橋梁点検車と快適トイレカーの出展、また、ひび割れ補修の体験コーナー設けて、実際に地元の小学生に体験してもらいました。

ひび割れ体験コーナーでは、30cm角のブロックに溝を掘り、それをひび割れに見立て、断面修復材のセメントで埋める作業をしてもらいました。当日は、参加した小学生の児童の元気な良さに、我々スタッフが圧倒されるほど、喜んでもらうことができました。

● **地域貢献**

当社では、現場周辺の住民の方々や地域への貢献活動も積極的に推進しています。



■ **東北支店 海岸防災林再生メンテナンス活動** (宮城県 2018年4月)

東日本大震災による津波で流失した海岸防災林の再生活動です。植樹してから早くも4年が経ちました。植樹した木々は、場所によって生育が違い、高いところでは2mほど、低いところで1.5mほどの成長となっていました。肥料をまいたり、下草を刈るなどのメンテナンス作業を東北支店の社員10名で行いました。今後も定期的にメンテナンスをして、立派な防災林になるまで、活動を続けていく予定です。



■ **東北支店 第12回富沢市民センターまつり 駐車場誘導活動** (宮城県 2018年9月)

支店のオフィスの隣にある富沢市民センターにおいて毎年行われている富沢市民センターまつりに今年も協力させていただきました。まつりへお越しになった皆様に、支店オフィスの駐車場(20台分)を提供しました。

当日は駐車場で、当社の社員3名の駐車場の誘導員や案内係を行いました。このように定期的に協力していくことで、地元地域に貢献していきます。



■ **東京支店 地元のお祭り(吉野神社祭)への支援** (神奈川県 2018年8月)

8月に現場の近くにある吉野神社で行われるお祭りに協力させていただきました。協力は、お神酒を含めた飲み物の提供と、山車を組み立てるために必要な用地として、現場事務所の敷地を提供させていただきました。

お祭り当日は参加者も多く集まり、大いに賑わいました。日ごろからお世話になっている近隣の方々に少しでも協力できたのであれば、幸いです。



■ **東京支店 子供食堂への協賛** (東京都 2018年5月)

協力会社が子ども食堂を始めました。将来の子供たちに対して、何かしたいと考えている多くの社員が賛同し、支店として、出資協力をしました。

まず食堂の開店当初に支店内で募金を募り、その出資金を贈呈しました。その後、支店と協力会社のゴルフコンペでもチャリティーの募金を行い、集まった募金を贈呈しました。

今後も継続的に、募金活動を続けて支援をしていきたいと考えています。

地域貢献

当社では、現場周辺の住民の方々や地域への貢献活動についても積極的に実施しています。



■北陸支店 ECHIGO 棚田サポーター (新潟県 2018年6月～8月)

ECHIGO 棚田サポーターとは、棚田を愛し、地域の方々と一緒に棚田を守るため、新潟県にある県農地部職員を中心に結成されたグループです。その目的に賛同した北陸支店の有志は、今年も新潟県各地の棚田の草刈り、清掃に協力しました。2018年度は、6月から8月にかけて計5回、参加しました。

【主な活動内容】

- ① 柏崎市 門出地区 田用排水路草刈り、溜池周辺整備
- ② 上越市 筒方地区 草刈り、用排水路の整備
- ③ 佐渡市 岩根沢地区 草刈り、用排水路の整備 ほか

■九州支店 和白干潟清掃活動 (福岡県 2018年10月)

福岡市では、干潟に積もったアオサを清掃して、和白干潟の豊かな自然環境を保全するアオサの清掃活動を行っております。当社はこの活動に支店長を含む4名が、九電商友会土木建築工事部会・セメント部会の参加者、総勢343名とともに参加しました。当日は10月とはいえ日が照り、汗をかきながらの作業となりました。またアオサは意外と重く、大変ではありましたが、いい運動にもなりました。この清掃活動には3年続けて参加しています。



■本店、東京支店ほか 献血活動に協力 (東京都 2018年7月)

東京都赤十字血液センターの要請に応じ、7月2日、本店の会議室において献血を行いました。当日は、本店所属の社員以外にも、同じビルに入居する東京支店、直轄グラウト部、海外事業部、緑興産(株)の社員が呼びかけに応じて献血を行いました。開始早々の午前10時から、社員の方々が次々と訪れ、血圧の測定、続いて医師による問診が行われ、確認がとれた社員から順次、献血が行われました。今回の献血の協力者は、43名でした。この献血活動は、今後も継続して行う予定です。



清掃活動等

現場周辺や支店周辺の清掃活動を積極的に行っています。



■東北支店 道路清掃活動 (青森県 2018年10月)

毎年恒例の青森県のジオファイバー協会の会員企業の方々と一緒に、県道27号線(青森浪岡間)朝日山～王余魚間の約7kmの清掃活動を行いました。当社の青森営業所の4名を含めた総勢30名が参加して、道路沿いのゴミを拾いました。7kmの道のりの清掃活動を行いました。ゴミを可燃、不燃に分別して、集め、家電などの不法投棄は、別に役所に報告を行いました。今年も、写真のように多くのゴミを集めることができました。



■東北支店 桂浜海水浴場清掃活動 (秋田県 2018年6月) 秋田県ジオファイバー協会の会員の方々と一緒に、秋田市桂浜海水浴場の清掃活動を行いました。当社の社員4名を含めた21名が参加して行いました。

清掃は作業を分担して行い、それぞれ背が高く茂っている雑草の草刈りや、空き缶、ペットボトルなどのごみを拾いを行いました。

海水浴シーズン前に周辺をきれいにする活動に参加でき、地元の環境整備に微力ながら貢献させていただくことができました。なお、この活動は、2007年から12年続いて参加しています。今後も継続して参加していきます。



■広島支店 第2回やまなみ街道クライムライドに伴う道の駅「赤来高原」清掃活動

(島根県 2018年8月)

広域サイクリングルート「やまなみ街道」沿いにある島根県飯南町赤来高原で8月に、サイクリング大会「第2回やまなみ街道クライムライド」が開催されました。その開催前に、当社を含めた頓原維持協議会の会員企業の皆様13名と共に、スタートとゴール地点である道の駅「赤来高原」の清掃活動に参加しました。昼ごろに集まり、周辺の草刈りやペットボトルなどの回収を行いました。



■広島支店 第5回道の駅グルメライド in 中国山地 2018に伴う道の駅「頓原」清掃活動

(島根県 2018年9月)

9月、広島県の三次市、庄原市、島根県の奥出雲町、雲南市、飯南町にまたがり「第5回道の駅グルメライド in 中国山地」が開催されました。この大会は6つの道の駅をサイクリングで巡りながら、中国山地の雄大なコースとグルメを楽しむグルメライドです。開催前に、頓原維持協議会の会員企業の皆様十数名と一緒に、道の駅「頓原」清掃活動に参加しました。ペットボトルなどのゴミ拾いと周辺の草刈りを行いました。

学生の企業訪問・次世代育成

当社では、インターンシップ、企業訪問の学生受け入れや、説明会を随時行っています。



■大阪支店 高架橋耐震補強工事でインターンシップの学生を受け入れ (香川県 2018年8、9月)

本工事を体験したいと希望するインターンシップの学生を受け入れました。学生への対応は、年齢に近い1～2年目の社員が担当し、現場内を案内、工事の詳細を説明して回りました。そのほか学生には実際に墨出しや測量も行っていました。場所を移した懇親会では、リラックスした中で意見交換なども行いました。参加していただいた学生からは、施工の面白さを感じることができたとの感想を聞くことができました。今後も様々な工事でインターンシップの学生を受け入れていきます。